

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月1日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	鹿児島県指定第4675300158号
法人名	社会福祉法人 希望会
事業所名	グループホーム やすらぎの里
所在地	鹿児島県姶良市下名2992番地 (電話) 0995-65-1641
自己評価作成日	平成23年5月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

<http://kaken-shakyo.jp/kohyo>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年6月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のホームは自然に囲まれ、毎日の暮らしの中で一人ひとりが出来る範囲で調理、掃除、園芸等の家事活動に声掛けを行ない本人の得意分野や自分の力を發揮して頂ける様支援しております。当ホームの自慢は何と言っても豊富な天然温泉で入居者様より大変好評を得ています。地域との交流も毎月の生き生きサロン、ボランティア様による絵手紙教室等も実施し、展示コーナーも設け、入居者様の生き甲斐になっており来訪者の方々の目を楽しませています。又、四季の食材を使った、保存食作り（梅シロップ・ラッキョウ漬け・切り干し大根・吊るし柿作り）も入居者と一緒にを行い、ホールのカウンター等に並べ出来上がりを皆で、召し上がって居ります。職員が、習い事をしており、入居者と一緒に、ホームの行事や併設施設の行事に参加し、披露して喜ばれています。昨年は、国分市で開催されたグループホームレクリエーション発表会に参加し、入居者の手作り展示品と余興に仮装して「ザザエさん体操」を披露し大好評を得る事が出来ました。又、手作りうちわを入居者・地域のボランティアさん・職員で数ヶ月かけて制作し、夏祭りに販売し、その益金で、一部義援金とし、残りで、隼人のA/Zに買い物に行き、入居者が、好きな物を思い思いに買う事が出来、思い出の一つになりました。今後も、初詣、花見、ソーメン流し、秋のドライブや地域のかかし祭り、小・中学校の文化祭等に出品を行ったり、地域社会との交流を大切にし、入居者一人ひとりに喜びや安心して頂けるケアを提供して行けたらと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは同一法人の介護老人福祉施設をはじめとして、通所介護事業所・小規模多機能型居宅介護施設等と同一敷地内にあり、それぞれの特長を活かした支援で交流がなされている。
- 施設全体と地域とは、行事を通じて相互交流が図られ、ホームも運営推進会議等を通じて地域住民との協力関係が築かれている。
- グループホーム理念の「生きる喜びとなる暮らし」を実践するために、利用者一人ひとりの喜びとなるものを職員が把握することから始めて、庭や畠での野菜づくりや山でのタケノコ堀りなど、環境を活かした楽しい日々を送っている。
- 地域のボランティアとの交流は利用者の楽しみのひとつで、ホームに活気をもたらしている。自家菜園で一緒に栽培した野菜を収穫して、楽しく食卓を囲んでいる。
- 穏やかで、安心した明るい表情の利用者が多く、真心のこもったサービスを行っている。
- 管理者や職員のコミュニケーションがよく、情報の共有がなされ細やかな支援が行われている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員で共有し、「地域の中でその人らしく暮らし続ける」理念を作り、その理念に添ったサービスを継続している。又、朝のミーティングや職員会議等で理念について職員間で話し合い毎日出勤職員で音読し、意識づけを共有している。	「あなたの思いや願いをしっかりと受けとめ、地域の中で…」という理念を、職員全員で再確認し、理念を毎朝ミーティングで唱和するとともに、職員会議で話し合いを行っている。入居者の話をよく聞き支援をするなど、理念を実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事（夏祭り等）の準備を地域の方々に呼びかけ、一緒に展示品の制作を行ったり、地域が主催する（かかし祭り、文化祭、生き生きサン等）地域活動に入居者と一緒に参加して交流を深めている。	地域行事や施設行事に利用者と共に参加して地域との交流を深めている。また、地域のボランティアが利用者と夏祭りのうちわ作りや野菜作り等で日常的に地域交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域住民や民生委員を対象にした、認知症の理解やグループホームの役割について、勉強会を実施している。又、入居者と直接触れ合う中で理解して頂く様に、交流会を年に数回開催し意見交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様や地域住民の代表者様、民生委員の方々や地域包括の方に呼びかけ定期的（2ヶ月毎）に運営推進会議を開催し、事業所が取り組んでいる活動内容や自己評価の説明、外部評価の結果を説明し、明らかになつた課題について様々な意見を頂いたりしサービスの向上に生かしている。	会議は地域包括支援センター職員・民生委員・家族代表等が参加し、年6回実施している。外部評価の結果を報告したり、地域からの提案で、消防訓練を地域と共同で実施するなど、出された意見を積み上げて、よりよいホームをめざしている。	

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5 4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営上の疑問点や問題点等が生じた時は、随時電話等で問い合わせをしたり、実際に窓口に向いて相談・指導を受けている。	同一敷地内に地域包括支援センターのサブセンターがあり、気軽に相談している。また運営上の困難な問題等については市担当者に相談し、指導を受けるなどして連携をとり、協力関係ができている。	
6 5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所全体で身体拘束委員会を設け、身体拘束がもたらす弊害や事例を取り上げ定期的な学習会を行い、十分理解して身体拘束のないケアに取り組んでいる。	毎月の勉強会や職員会議等で身体拘束廃止に関する職員の共有認識を図っている。身体拘束廃止委員会が設置されマニュアルもある。昼間の玄関の施錠はせず自由な暮らしを支援している。外出願望の場合は、散歩や買い物等に切り替えて対応している。	
7	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所全体で、虐待防止委員会を設け、定期的（毎月）に勉強会を実施している。委員会の中で、一連のマニュアルを作り身体拘束や虐待のないケアに努めている。又、外部の研修にも参加している。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、入所前より「地域福祉権利擁護事業」制度を利用されている援助者（2名）もあり、職員も制度については、外部研修等で理解しており、担当者と連携を取りながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約等の際は、入居者・ご家族に対し、重要事項説明書や利用契約を十分に時間をかけて説明を行い、理解・同意を得た上で契約書を取り交わしている。重度化や看取り及び医療連携体制等についても十分に説明し、同意を得ている。			
10 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段から利用者と積極的にコミュニケーションを図り、利用者同士の会話の中や表情・言葉等からその思いを察するよう努めている。ご家族にも、定期的に事業所新聞等を発行し事業所の様子を報告している。又、面会時には、意見箱も設置し、ご家族の意見や要望等を気軽に話せる雰囲気作りに留意している。	一人ひとりの利用者への「気づきノート」を作成して、利用者の思いなどを職員全員で話し合い、情報の共有を図っている。また家族の面会時には、職員からやすらぎ通信を通じて、日常の暮らしぶり等を報告し、家族からも要望等を気軽に話してもらえるようにしている。意見箱も設置している。出された要望等は運営に反映させている。		
11 7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図る様に心がけ、ミーティングや勉強会等必要に応じ開催し、意見を聞く様にしている。代表者は、毎月の職員会議に参加し、職員の意見や要望を聞き、改善に繋げている。	管理者は、職員から日常のケアの中での具体的な意見や要望等を気軽に聞くようにしている。毎月の職員会議や勉強会等でも意見を聞く機会を設けている。また代表者も直接職員からの意見や要望等を聞く機会として、職員会議に出席し、意見を反映している。		
12	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得や仕事への取組み等を見極め、職員自身の自己評価申告を実施し、十分話し合った上で職員が働きやすい様な職場環境を作っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、事業所内外の研修が受けられる様法人全体で学ぶ機会を提供している。又、個人的にも資格取得のための勉強会を行い国家資格を所得出来る様に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム評議会の主催する事業所同士の研修に参加し事例検討や意見交換を通してお互いの事業所の情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。又、同法人内の研修にも参加し交流を図っている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時は、必ずゆっくりと時間をかけた事前面談を行い、実際に何に困っているか、些細な事柄についてもご本人の生活の全体像を把握し信頼関係作りに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めての相談時に家族との面談を行い、ご家族の置かれている状況や困っている事情をゆっくりとお聞きし、ご家族の抱えている不安を把握し、信頼関係を築く様努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人・ご家族の思いや生活状況をよく聞きとり、当面必要と思われる支援を見極め、当事業所でのサービス内容をしっかりとお伝えし、ホームに空きがない場合、即入所は出来ないので可能な限り柔軟な対応をして場合によっては、空きが出るまで他のサービスを紹介する等の対応をしている。			
18	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事を行い、近くの山より採れた竹の子の皮むきや煮しめの味付け等を一緒に行いながら教えて頂いたり、本人の得意な事を活かせる場面作りを日常的にしている。昔の歌や昔ながらの楽しい遊び方等教えて下さる事もある。			
19	○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族とのコミュニケーションを取っており、家族会の開催や、誕生会や行事等への参加・協力を呼びかけ、花見や運営推進会議等に参加して頂く等、ご家族の思いを聞ける場を持つ様にしている。			
20 8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの行きつけの美容室やスーパー等を利用したり、他の事業所の友人・知人を訪ねたり、来てもらったりしている。ご家族以外の友人に手紙等を送付している。	利用者の馴染みの美容院利用や墓参・自宅訪問・家族や友人等の見舞い等を支援している。また友人との文通も支援している。利用者の希望に添って、これまでの関係継続を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	職員は、お茶や食事の時間には利用者との間に入り一緒に会話を持つようにしている。又、レクリエーションや家事活動を通じて利用者同士の交友関係を築いている。利用者同士のトラブルがあった場合は、職員が仲介役となって孤立しない様に配慮している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	併設の施設へ移られた利用者にも入居者と一緒に面会に行ったり、事業者の方にも遊びにきてもらったりして交流を図っている。又、ご家族にも面会に来られた際には、立ち寄って頂いたりしている。		

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々のかかわりの中で本人と話し合ったり、利用者間との話を聞いたりして、ご本人の思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、言葉や表情等から真意を推し測ったり、ご家族と相談しながら一緒に検討している。	利用者との会話・表情・言動からその思いを察知している。意思表示が困難な入居者には管理者自ら寄り添い思いを把握したり、家族の意向も聞いた上で職員間で検討し、思いの把握に努めている。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	利用時に、ご本人やご家族より入所前からの暮らしぶりの聞き取りを十分行い、料理作り等、得意な事を把握しやって頂いている。友人の来訪時にもプライバシーに配慮しながら把握に努めている。又、これまでの主治医を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや心身状態等を詳細に記録し、全職員が情報の把握に努めている。出来る事に着目し、家事活動や趣味活動（絵描き・踊り・カラオケ・ゲーム）等の取組を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、面会時や担当者会議等で必ずご本人やご家族の思いや意見を聞く様にしている。職員会議やソーシャルワーカーで、気づき・問題点等について話し合い介護計画に活かしている。又、個々の状態変化に応じて本人、ご家族の意見や要望を基に主治医や職員と話し合いアイデアを出し合って介護計画の見直しを行っている。	本人の意見や「気づきノート」・毎月行っているケアプランの実施状況のチェック・家族の意見・主治医の意見等を基に、ケアプランを作成している。またモニタリングを3ヶ月毎、プランの見直しを6ヶ月毎に実施し、職員会議で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や介護日誌は、個別に食事・水分量・排泄・健康状態・日々の生活の様子等を記録し、情報の共有に繋げている。介護日誌は、日中（黒）、夜間（赤）と区別して見やすい様に工夫している。介護計画実施表を作り確認のチェックを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望や状況により、病院受診や美容室への付き添い、送迎等の支援を行っている。健康管理や状態変化に対しても、協力医療機関による受診や、24時間連携体制を取り医療ニーズへの対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の指導の元に地域住民と職員による夜間総合避難訓練を実施している。地域の方々や、民生委員のボランティア、地区の小・中学校の文化祭や訪問等の交流の機会を設け、入居者の安全や楽しい時間の創作に重点を置き支援している。			
30 11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医や、本人・ご家族の希望する医療機関に定期的な訪問診療を受けている。受診や通院は、家族同伴や希望により職員が付き添いを行っている。施設内での看護体制をより強化し、24時間体制により、ご本人・ご家族が納得の行く医療受診が行える様にしている。	かかりつけ医への受診については、家族の希望を聞き受診支援を行っている。また協力医療機関と連携をとり、定期的に訪問診療を行い、適切な医療を受けられるように支援している。		
31	○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師に入居者の各人の病状経過等を報告し、状態悪化時に適切な判断を仰ぎ利用者に適応した看護やかかりつけ医・協力医院による24時間連絡体制が出来る様に支援している。			
32	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	これまでの利用者の入院に対し、ご家族とも連絡を取りながら病状の把握は行っている。又、入院先の面会に行き経過を伺い、主治医に報告し、ご家族とも話し合い、少しでも早く退院出来る様に連携を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいく</p>	<p>重度化した場合や、終末期のあり方については、アンケートや看取り介護並びに終末期医療に関する同意書を作成し、本人やご家族、主治医を交えて説明や話し合いを行い入居者全員の同意を得ている。又、その段階の時点では、ご家族と話し合い一番良い支援の方法を選択出来る様に取り組んでいく。</p>	<p>利用者の急変時のアンケートを実施したり、連絡体制のマニュアルを作成している。本人や家族・主治医を交えて対応をして、重度化や終末期に向けた方針への同意書を取っているが、明確化に向けては今後検討予定である。</p>	重度化や終末期に向けた方針の明確化が期待される。
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています</p>	<p>各利用者の急変時及び事故発生に想定した連絡体制のマニュアルを作成している。消防署の協力により、事業所全体による心肺蘇生術（実技含む）研修や、併設の看護師による応急手当などの勉強会を実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、地域住民の参加による総合避難訓練、夜間想定消火避難訓練、消防用設備等の総合点検を行っている。地域住民との自主防災組織を作り、話し合いや支援体制に取り組んでいる。</p>	<p>地域住民と共に自主防災組織を作り、法人全体で夜間想定の総合避難訓練を地域住民の参加を得て毎年実施している。スプリンクラーの設置や災害時の食糧等の備蓄も行っている。</p>	
<h4>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</h4>					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>事業所全体で人権擁護委員会を設け、全職員で定期的に勉強会を実施している。又、入居者一人ひとりを尊重した言葉かけを行い記録等の個人情報に関しては施錠し取り扱いに充分注意している。</p>	<p>利用者を姓で呼ぶことを基本として、利用者一人ひとりに尊重した言葉かけを行っている。トイレの失敗など、さりげない支援の配慮も行っている。また、穏やかな態度と静かな言葉かけでの対応を心がけている。</p>	

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人とゆっくりとコミュニケーションをとりながら、自己決定してもらえるように配慮している。意思表示のできない利用者には表情や行動等から察し、表現しやすいように働きかけを行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、一人ひとりの趣味や気持ちを大切にした柔軟な支援を行っており、(絵手紙、塗り絵、買い物、読書、起床時間や入浴時間等)利用者の希望に合わせて支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望により、行きつけの美容院を利用している。又、本人や家族の意向により職員がカットすることもある。服装は本人の好みで対応しており、自己表現できにくい利用者には一緒に着る洋服を選ぶ等のお手伝いをしている。		
40 15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が、一緒に調理の手伝いや味付け、配膳、片付け(食器洗いやお膳拭き)等を行っている。食事の際は、食材や味付け等を会話しながら一緒にのテーブルで食べている。	利用者と職員が一緒に、菜園で作った野菜等を収穫して、共に協力して食事を作り一緒にのテーブルで、楽しく食べている。	

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分チェック表を細かく記録し不足しない様に配慮している。併設施設の管理栄養士より、栄養スクーリング勉強会や、献立のチェックや栄養バランス等のアドバイスをもらっている。		
42	○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯の洗浄や、歯磨きの声掛けや誘導を行ない、利用者全員の口腔ケアに努めている。自力で出来ない方には、見守りや援助により行っている。就寝前にはポリデント消毒を行っている。		
43 16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの様子を観察しながらさりげない声掛けや誘導を行っている。夜間や外出時に不安がられる利用者には、リハポン、尿取りパット等の使用を促している。夜間帯に特に転倒や排泄の失敗を気にされる利用者にはその時に応じポータブルトイレを使用して頂いている。	排泄のサインを見逃さないように、一人ひとりに応じたトイレでの誘導をしている。パット等が居室に落ちている場合もさりげなく片付け、夜間は安心のためのポータブルトイレを利用するなどして排泄の自立にむけた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、なるべく牛乳を飲用する様にし、纖維の多い食材を取り入れている。運動不足にならない様、朝の体操・踊り等、体を動かす機会を設け、便秘予防に努めている。			
45 17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の好みに合わせ曜日を決めている。一人ひとりの体調や希望に配慮し、時間帯・順番は本人と相談しながら決めている。入浴拒否される方には、時間をおいて再度声掛け対応をしている。	入浴は天然温泉であるため、楽しみにしている利用者が多く、毎日でも入浴できる。利用者の体調や希望に配慮し、曜日・時間帯を本人と相談しながら計画している。週3回以上を基本として、汗をかいた後は入浴を促している。個浴でゆっくり楽しんでいる利用者もいる。		
46	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、レクリエーション、趣味活動、散歩や外出等の活動を促し、安眠に繋げている。どうしても眠れない時は話し相手になり、不安を解消した上で安心して休んで頂ける様に対応している。			
47	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者、一人ひとりの薬剤情報提供用紙をファイルに整理し、全職員が薬の目的や内容を把握している。薬の追加や、随時薬が処方された場合は、全職員が把握出来る様に、申し送りノートに記入している。			

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味等を把握し、本人が好きな事、出かける事を楽しみながら生活して頂ける様に働きかけを行っている。本人の得意とする家事活動やレクリエーションでリーダーシップを發揮されている。（絵描き・食事作り・カラオケ・買い物・生け花・塗り絵等）		
49 18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	歩行訓練や気分転換を兼ねて散歩にでかけたり、希望によりスタッフ同行でドライブ・故郷訪問・買い物支援を行っている。地域の生き生きサロンや季節に応じた行事計画等の戸外に出かける際は、ご家族やボランティアの方に協力を得ている。	日常的には歩行訓練を兼ねて、庭での散歩を朝夕実施している。全員参加のドライブを月1～2回実施し地域の生き生きサロンや花見・故郷訪問・買い物支援を行っている。全員参加のドライブを年3回は家族会と共に、行事計画を立て、ボランティアの協力をもらい、遠出をすることもある。	
50	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者は、ご家族が金銭管理をしており、ご本人の力や希望に応じて少額を所持してもらい、安心して頂ける様配慮している。買い物時には本人に財布を持って頂き自分で支払って頂ける様サポートしている。管理出来ない利用者には職員がお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の中には、ご家族が遠方のため、ホーム便りや月一回の絵手紙・本人自身が書かれた手紙等を郵送し、やり取り等の交流が図れている。利用者に書いて頂いた絵手紙を、年賀状や暑中見舞いとしてだしている。電話が来たり、掛けたりする時は、子機使用により居室で気兼ねなく話をして頂いている。			
52 19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音・食材を切る音・心地良い音楽、好きなテレビ番組等を掛けたり、利用者と一緒に手作りしたラッキョウ・梅シロップ漬けを台所カウンターに置いたり、又、菖蒲湯やゆず湯等、季節感を取り入れて工夫している。季節の花を入居者と一緒に活けてる。食材には、なるべく旬の物を使い季節感を取り入れる様にしている。	共用空間はキッチンカウンターが低いためリビングと一体化した広々とした空間となっている。壁には利用者の作品や写真が貼られ、手作りの保存食も置かれ家庭的な雰囲気が保たれている。四季折々の花等を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの玄関、ホールにソファーを置き、気の合う利用者同士が話したり、くつろいでいる。廊下（2ヶ所）にも小さなテーブルを置き、自由に絵描きや会話を楽しめている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で利用されていた馴染みのタンス・座布団・目覚まし時計、ラジオ等日用品を自由に持ち込んで頂いており、落ち着いて生活が出切る様にしている。	利用者の使い慣れたものが持ち込まれ、一人ひとりの好みが活かされて、その人らしく過ごせるように配慮された居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等の混乱しやすい場所には、利用者の目線に合わせた名前、似顔絵、本人に描いて頂いた絵等を表示し工夫している。また、新たな混乱や失敗が生じた場合は、その都度全スタッフで話し合いご本人の自立を促す様に支援する。		

## V アウトカム項目

	56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
	57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまにある
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
	58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
	59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)		1 大いに増えている
		○	2 少しづつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない